



Contents もくじ

特集

地域で育む「子どもの未来」
平成たんば塾実施中！ 2～3

トピックス 4

こちら市長執務室 5

丹波市の人事行政運営
等の状況 6～7

ちいきの元気を発信中！ 8～9

教育たんば 10～12

人権のとびら ほか 13

イベント情報 14～15

人権を考えるつどい ほか 16

ゴミの分別 ほか 17

健康生活 18

認知症を知ろう ほか 19

情報ひろば 20～23

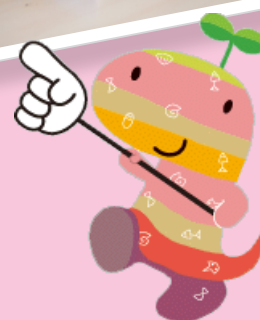
トピックス 24

〔表紙の紹介〕

「平成たんば塾」

夏休みの期間、小学生を対象に地域の
人々が力を合わせて子どもたちの
学習をサポートする、平成たんば塾
が実施されています。ボランティア
スタッフの方に教わりながら、夏休
みの宿題や用意した問題集に意欲的
に取り組んでいました。

写真は8月10日に、吉見校区の平
成たんば塾に参加した子どもたち



地域で育む「子どもの未来」

現代版寺子屋「平成たんば塾」が市内各地で実施されています

今年の夏休み、みなさんどのように過ごしていますか？。ラジオ体操やプール水泳に参加したり、家族と山や海に出かけて思い出づくりをしたりと、夏休みにしかできないことにチャレンジしていることと思います。

さて、1年で一番長い夏休みは、大切な思い出づくりの時期であるとともに、家庭学習の習慣づけや自分で立てた計画を実行するなど、子どもたちが大きく成長できるチャンスでもあります。

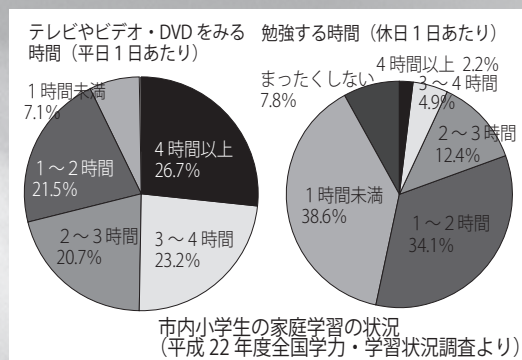
「このチャンスを生かし、新学期にはひとまわり大きくなった姿をみんなに見せてほしい！」そう願う地域の人々が子どもたちの成長を見守るだけでなく、成長をあと押しする。地域の教育力を活かし、子どもたちに学習習慣を定着させ、ひいては、学力や自立心を高めるため、この夏、現代版の寺子屋「平成たんば塾」が市内21校区で実施されています。

地域住民の教育力を活用

「平成たんば塾」では、夏休みの間、各自協議会が地域の公民館などを開放し、ボランティアスタッフのみなさんが子どもたちの夏休みの宿題を中心に学習のサポートを行っています。ポイントは子どもたちを支援するスタッフが、近所の顔なじみのおじさんやおばさんなど、身近な人々であること。ボランティアスタッフのみなさんは「地域の子どもたちが互いに学習意欲を刺激し合うことで、家庭学習の定着、さらには学力の向上につながれば」そんな思いを込めて、子どもたちを支援されています。また、子どもたちも意欲的に学習に取り組んでいました。

家庭学習をめぐる子どもたちの現状・平成たんば塾実施の背景にあるもの

1日に2時間以上テレビなどを見て過ごす市内の小学生の割合は、約71%と全国平均に比べ高くなっています。また、土日など学校が休みの日に2時間以上勉強する生徒の割合は、全国平均に比べて少なく、小学生や中学生の家庭での学習習慣が定着しているとは言えない状況がうかがえます。



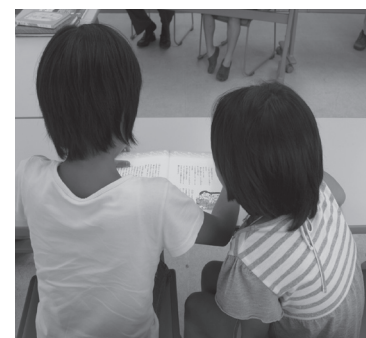
主な要因

- ・インターネットやテレビゲームなどに費やす時間の増加。
- ・夜型のライフスタイルによる生活リズムの変化。
- ・核家族化の進行により、昼間子どもの学習を見られる大人が減少。

さらには、オンラインゲームなどの普及により、家で一人で遊べるため、子ども同士遊びや地域社会とふれあう機会が減少傾向にあるという問題も考えられます。

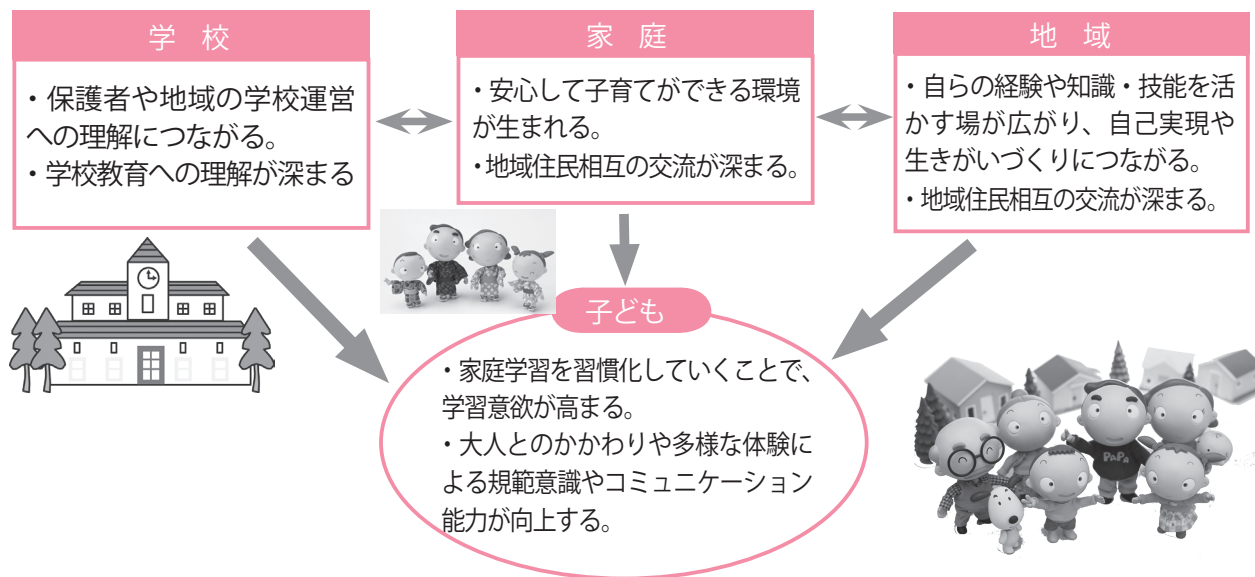


神楽、上久下、吉見での取り組みのようす。分らないところはそのままにせず、ボランティアの方に尋ねたり、友だち同士で教え合ったりしていました。



平成たんば塾がめざすもの

子どもたちの家庭学習を習慣化させるとともに、地域の大人とふれあい、多様な経験をする中で、子どもたちの「生きる力」を育むことができます。また、地域と家庭の相互の関係が強まり、地域ぐるみで子どもを育てる機運の高まりや地域の活性化が期待されています。



地域・家庭・学校が連携・協力し、「市民総がかりの教育」を推進しています

「市民総がかりの教育」とは、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を再認識するとともに、子どもたちの成長にかかわる当事者としての自覚と責任を持ち、丹波の子どもたちを育む教育を推進することです。『たんばの教育元気プラン』より

HITOSHI ADACHI

足立 仁 さん (神楽校区)

夏休みの宿題を持ち寄って間違っているところには付箋を貼り、分からない箇所がそのままにならないよう理解できるまで指導しています。私が教員をしていたころの経験を地域の子どもたちに還元できる喜びを感じています。地域・家庭・学校、それぞれが責任を持って地域の子どもを育てることが大切。たんば塾も一過性のものにせず、長く続けていけたら良いですね。それには、継続的に支援できる大人が必要です。地域の教育力の発掘も同時に求められるのではないのでしょうか。



「育てる喜び」

HIDEMICHI INOUE

井上 英道 さん (吉見校区)

登下校中の子どもへの「声かけ運動」や「みまもり隊」を通じて良く知っている子どもがたくさんいるので、少し親の立場に近い感覚で子どもを見ています。ですから、当然指導にも気が入りますし、同時に責任も感じますね。子どもたちは地域の宝です。たんば塾は彼らの成長を近くで確かめられるとても良い機会です。



「責任」

ISAO YANAGAWASE

柳川瀬 功 さん (上久下校区)

学校でも家庭でもない、地域の立場から子どもたちに学習ができる環境を提供できたことは、地域の教育力の向上につながります。地域のゲストティーチャーを招いて星空観察会や絵本を使った話し方教室なども実施し、地域が持つ知識や技能を子どもたちに伝えられたことも一つの成果です。上久下は丹波竜の化石が発見された地域。地域にある豊富な資源を子どもたちに伝え、地域の良さを再認識してもらえたらうれしいですね。



「地域の活力」

INTERVIEW

●上久下 4年生 柳川瀬友那さん

みんなで一緒に勉強するって楽しいなと思いました。



●お母さん 柳川瀬千幸さん

顔なじみの地域の方にお世話になれるのはとても心強く感じます。

●神楽小 6年生 竹村歩華さん

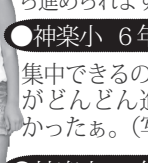
苦手なところは先生がわかりやすく教えてくれるから、理解しながら進められます。(写真：右)

●神楽小 6年生 武田楓果さん

集中できるので、夏休みの宿題がどんどん進みます。来て良かったあ。(写真：中央)

●神楽小 4年生 武田陽生くん

たんば塾で都道府県名をおぼえられたよ！(写真：左)



●上久下 6年生 前田亜矢さん

話し方教室では、みんなの前で本読みをしました。主人公の気持ちになって読んだら、先生にほめてもらってうれしかった。



●吉見小 5年生 余田陽斗くん

みんなで勉強すると集中できるから、宿題がどんどん進みます。今ごろ家にいたらテレビを見てゴロゴロしてたかも。



参加者に聞きました
たんば塾の感想は？